

人権学

2011.9 ～

一般的に人権学と聞けば、法律だ政治だ経済だと兎に角範囲が広く感じられるが、本質は市民の為の学問であるという事であり、公益体の為に各自が何か知る所を可能な限り為すべきとの理解認識を促進させるものだ。教育学、直接民主主義と不可分である。

～人権とは何か～

定住し建てた家に財産を蓄える。政治とは彼と彼の財産を保護する事であるから、人権とは財産権である。自己財産を保護してもらい、そして他者の財産も奪われないようにするというもので、他人の保障がなければ自分の財産も奪われかねない。つまり人権とは繋がりを意味するものだ。与え施すのは古来より善道、脅し奪い取るのは悪道である。己の財産の保護は、善というわけでも悪というわけでもない。

完全に孤立した家に住んでいる場合は他人の財産を保護する義務はない。義務を果たしたので権利を得るわけであり互いの財産を保護し合うのである。その保護役割を代理人に委譲するわけであるが、この統治が強制的に発生したものであるにせよ、人権そのものを考察すると、政府統治者は必要なく”二者以上”が集まれば自然的に発生する権利と考える。それ故に神が与えた権利であるという風に特に神に根拠を求める必要も無い。つまりは政教分離、民主主義と何ら矛盾しないという事だ。では、ユートピアに唯一人で暮らしているならば、と考えると…。

動物や魚は人権を持たないが為に、命容易に奪われ、卵や蓄えた餌等の財産は保護されず弱肉強食の掟に従うのみである。

上で説明したように財産権が人権を構成する最も原初的な権利である。我々は二人以上で共同体を営んでいるのが世の常であるのでこの権利を有している。注意したいのは財産権とは増やす方のみの保障では不完全であり、減らす側の捨方も保障されてこそ完全なものとなり得る。

二種の財産権

例) 日本国憲法より 25条 (捨方)

すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を放棄する権利を有する。

こちらの権利が無ければ存在する社会においてある一定の所有奉仕を強要され不自由な状態となる。捨てて山で暮らそうにも土地が無い、林で暮らしていたら警察に尋問される、土地の地主に追い出される、砂漠で住めない等。捨てる側の権利によって人は原始人のような生活を営む権利、動物のように生活する権利が保障されなければならないが、人類進化の観点より（権利を理解出来ずに）容認されないという事態になろう、積極的な裏付けが欲しい。そこで捨てる方の財産権の事を環境権と定義する。

環境権について

環境権とは環境に配慮する、自然を残そうというものだ。

私は環境権の根底を仏陀の時代要するに自然豊かな過去世の環境に求めた。自由思想家全盛の時代であり、中国を見れば諸子百家、西欧でもまた然り。

豊かな自然環境と思想の成熟は何やら関係がありそうである。

西欧社会に決定的な影響を与えた聖書にも、

「園の全ての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

とある。木も生えないような不毛の大地（砂漠等）になってしまっただけでは楽園が失われてしまっただけで困るという事で、環境権の根拠を見出し得る。環境権とはまさに西欧と東洋を繋ぐ架け橋となるべきもので基本的人権と定義出来よう。

環境権より、爆弾攻撃等での”自然破壊”行為が好ましくない事は明らかである。

以下に釈尊を修行僧の一つの形として環境権の考察を進めていこう。釈尊の成道とあるが、それはこの場合で仏陀をモデルにして議論しているからである。「釈迦に説法」…真理とは何ぞやと議論するのもおもしろい。

- 1 釈尊の成道と当時の釈尊の生存環境は一切関係ない
- 2 釈尊の成道と当時の釈尊の生存環境は関係ある

1は危険。我々は判断出来ないなので、よって2が残る。

- 1 環境にやさしい技術ならばよい（風力発電とか）
- 2 環境にやさしい技術でも風力発電とか当時は無かった

我々は判断出来ないなので、よって2が残る。

…無知故に障らず、それならば当時の環境を出来るだけ忠実に再現・保存するのが修行林としては好ましい事になる。宗教的修行環境として2～3000年前と同環境の保全、修行環境利用の権利としての環境権を我々は有している。環境権とはそれゆえに自然環境保護そのものなのであり、自由保障享受権と言っても差し支えなく、修行林を示す。是非君の街に修行林を造営しよう。

注)

環境について述べているのであってその使用方法には言及していない（林環境が保全される範囲で、利用方法はあくまで自由であるべきだ）。

托鉢場 … 決められた場所。
性混在禁止区域 … 林の中に存在する。

* 性を差別しているのではなく区別しているだけ。

以上より環境権が設定されたが、修行の内に原始的生活を営む権利と動物の様に生活する権利が含有される。開墾に関しては所有権が消失した空地なので必然的に自由が認められるが、度を超して収穫物を所有しても意味は無い。盗まれても其れには所有権を主張出来ない。

自然環境保護が明示されたがまた是より平和権が発生する。戦争が起きれば昔の頃より焼き払ったりするので環境が破壊される又他者の財産権を脅かす様な事があってはならない。つまり此处で述べている平和権とは戦うなという事ではなく、奪わず殺さず自然破壊せずに合意の下で争うならば特に否定されない。

又小島を想定して頂いて、財産を所有するには其れを置く土地が必要だが、一人が際限なく土地の所有を拡大していったら他の者の土地が窮屈になり不自由になる。他の者はもう物を置くのも苦しく狭い、物もそちらに廻ってしまいほとんど無い程度まで追いやられたとしよう。これは明らかに他者の財産権（増やす権利）を侵害している。拾方には限度制約が課せられるという性質が存在している事を見逃してはならない。これにより最低財産補償、要求権が発生する。

例) 日本国憲法より 25条 (拾方)

すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

<財産権>

捨方 環境権
平和権
離婚権
自由権

拾方 要求権
結婚権

非捨非拾方 財産権 (狭義)

狭義の財産権とは現状での所有物の保護の事。

又上記に結婚権と離婚権があるが、片側は離婚時財産補償を要求する権利を持つが是は労働分であり、伴侶に対する財産要求権と捨方制約からの財産要求権は別モノである。結婚して家庭を創るという事は、共同所有により財産権を消失させて独りに似せるという事である。(家庭として他者に対し財産権は勿論存続する)

* 離婚権の最終的な裏付けは環境権の男女区分による所である。結婚による伴侶の数に関しては財産権の捨方制限より制約を受ける。是より性倫理道徳が発生する。ここでは性倫理道徳に関して、宗教的な解釈を要しない事を宗教的な解釈を否定していない事を強調しておく。

* 自由権は環境権より根拠付けられる。是に依り奴隷制度は明確に否定される。

政策とは他者の人権を保護する事である。寺を考察すれば、二人以上集まっているので財産権は発生するが、共同所有という形で其れを消失させ独りに似せている、愚者の集まりでは到底維持出来ない。ちなみにこれが共産国と寺の違いである。共産の国では、二人

以上集まっているので財産権は発生するが、共同所有という形でそれを消失させ独りに似せている、愚者も居るのが国であるから到底維持出来ない。つまり大き過ぎるのだ。また環境権を考慮すると、余りにも自然が乏しい大都会のビルの寺はいかがなものか？という話しになろう。二人以上集まっているので環境権が発生す。大都会の公園等に見られる自然環境設計と考えてもよろしい。寺を考察すれば、二人以上集まっているので環境権は発生するが、共同所有という形でそれを消失させ独りに似せている、ならば自然が残っている所に建てるのが良い。

それでは奪わず殺さず自然破壊せずに合意の下で戦おうではないか。
我が記している是が人剣の因縁である。

人剣は第三篇を参照の事。

本人権学は、三篇より構成される。

- 一 政治と民主主義篇
- 二 財産権拡充篇
- 三 人権啓蒙篇

今日、世界で標準とされている人権とは、欧米よりの、各人の血のにじむような努力と忘れたくなる様な目を背けたくなる様な悲惨な経験、無数の屍の上に礎を築き発展してきたものだ。だが本論ではそれをそのまま受容するのではなく、私の見解を明示する為定義から考察を加えている。ヨーロッパの考え方では、人権とは神より人間に等しく与えられた神聖なもの、人間らしく生きる権利である。しかし本論では、述べたように神に根拠を求める必要は無い。其の神を全く信じていないのに等しく与えられるという所からして危うい。其の神を敵視しているのに等しく与えられるなどは尚更である。人権とはつまりは財産権である。何故その違う土地の彼の方が持てる財産は遥かに多いのか。心が弱い人の貧乏は悲惨な生活。衣食足りて礼節を知る故その者は財産権を理解出来ない。足りないとは欲するという事である。

確かに平等ではない、最低限度の機会の保障などあるはずはない、とそう言い切ってしまうが、皆で模索して目指し続ける所にこそ意義がある。捨方も環境を整えよう。

- 一 政治と民主主義篇 では市民として如何様が有益かを問う。直接民主主義もそんな

事はあり得ないと言い切ってしまう所が同義である。民主とは自らが賢くなるという事。つまりは他の者も指導し其の人とは政治家でもある。国民がそのような雰囲気ならば国家は非常に精強である。賢王が去って空席となり無政策を用いれば空無となる。

*何時の世でも集団が形成されれば間接的民主主義なのである。絶対権力を握っている王が君臨していたとして、彼とは国民の代弁者なのでありそのように主張する。自らが語る事が国民の総意なのであって、民達は満足していると。現代の間接民主主義は国民に直接選挙で投票され選出されるので、先のような王制と比較した場合、直接民主主義寄りに進化した結果である。一例として、より選挙結果に透明性を持たせる様に創意工夫しようという議論になったとして、それが実現したとしよう。以前より国民の声が反映され影響力が増したのだから更に直接民主主義側に移行したと考える。現実を冷視すると、民主主義など嘘だと言ってしまうようになるが、それは否定してはならない事である。権力主義者に騙されてはならない。

*最近、中東で直接民主主義を語っていた者が処刑されたが、言葉遊びに惑わされてはならない。彼は君臨していたではないか。

具体的には今日のコンピュータを利用した民主主義の可能性を中心に考えていく。
(以前の内容を踏襲している)

二 財産権拡充篇 とは、人権学は財産保障拡充行為並びに人権啓発活動と不可分という理念の下、

*この世は貧困で満ちているからであり貧困者はそれ故人権に関して無知だから。

財産保障拡充行為一例として、オンライン福祉カジノシステムを提案する。政治と民主主義篇のコンピューターシステムの一部でもある。

福祉オンラインカジノ

…オンラインギャンブルの収益を貧困層へ循環させる福祉、所得保障補充システムの構築。

- ・コンピュータ制御により収支に安定性。
- ・オンラインなので人権費、場所代等維持管理費が劇的削減され実行可能。実在店舗型では管理費以外にも、腐敗性が問題となり全国規模でチェックしづらい現実的でない。

- ・今後複雑化（高度情報化）したギャンブル市場への国内外民間企業進出対応策。
- ・周辺製品（TV、パソコン関係製品等）の需要増大経済効果。
- ・市民の政治参加、人権意識の高揚。政治レベルの上昇。

リナックスの成功事例を見ても非常に期待出来る。オンライン福祉ギャンブル世界に限ってはソースコードはオープンになっているが、その地方地方の歴史や伝統が芸術上反映する為、雰囲気は当然違ってくる。コンピュータを使用する非営利活動の真骨頂と言えよう。其処にはエンターテイメントという楽しくそして美しい芸術の華が咲くだろう（が遊び過ぎには注意が必要だ）。今日に至っては、人権という言葉は誰しもが意識している。しかしそれを強く思うのは自分や近い人間が困難に直面した時である。人権が神聖なものであるならば、まさに困った時の神頼みである。人権に対する期待は大きいですが、平時はそのような事は皆考えない。堅苦しく何も面白みも無いから。遊戯を用いる事によって、人権啓発、民主主義の進化に決定的な影響が出ると予想する。太字で強調されていますが重要な箇所です。ギャンブルゲームをしながら、人権学習を行い、福祉ポイントを貯め、個人への政党助成金配布に影響が出るように設計する。政党助成金は非現金配布を提唱しているが詳しくは各篇を参照の事。

*ギャンブル行為に否定的な方も、個人に使用限度月額を設ける事で納得される方も多いと思われます。

三 人権啓蒙篇 では、スポーツを用いて積極的に人権啓発活動を試みる。貧困者の無知より啓蒙活動は必須だが、つまりは教育学と不可分。今日若年者教育に人権教育は不可欠である（いじめは人権侵害など）。

スポーツとはよくよく考えてみれば平和時でなければ決行されない。平和を象徴し友好関係の構築という視点から人権と相性が良い。

*市民政治活動の集会において街のスタジアムとスポーツイベントの定期利用論に関しては一篇を参照。

人剣

…相手の人権を尊重するところから万事が始まる。

竹刀を用いる剣競技で剣道にルーツを持っている。剣道との違いは明確に強く人権教育を意識している点。その他にも色々違いはある。身体障害者の人権関係で車いすアーチェリー団体と仲が良く、一緒に団体戦をたまに行ったりする。使用道具は今の所剣道の物を代用している。

(以上未実現なので注意)

*人権は神聖なものであるという考え方を否定している訳ではない。人権は使い方によって、獣にも神聖なものにもなる。人権を悪用してはならない。神聖に成り得るのだから、やはり人権は尊ばれるべきものである。

以下に具体的に財産権の内容を現代に即して列挙した。各自再考されたら良いと思われる。

<財産権>

捨方 環境権
 平和権
 離婚権
 自由権
 強要拒否権
 脅迫に抗する権利
 平民権（奴隷制差別待遇制度禁止）
 選挙権
 少数民族人権
 休暇権
 妊娠休暇権
 女性特有人権
 選択権
 体接触拒否権
 意表権
 移動権
 革命権
 最先端武具所有権
 軍隊統制権
 クリーンエネルギー推進権

拾方

要求権

結婚権

購入権

中古品に関する権利

レンタル品に関する権利

返品に関する権利

労働権

販売権

未成年労働権

言論権

会議開催権

出版権

著作権

政治活動権

裁判権

スポーツ権

スポーツ用具権

娯楽権

受教育権

児童権

遊戯権

児童施設権

里親に関する権利

衣食住権

伝統衣装権

食料安全権

欠陥住宅保障権

医療権

認知権

告発権

病状認知権

メディア権

官僚機構情報公開要求権

マフィアを知る権利

犯罪技術を知る権利

名誉権

政治影響力に対する権利

安全権

プライバシー権

ハイテクノロジー侵害に抗する権利

治安権
対公要求権
警察外部監察権
対私要求権
共益施設要求権

非捨非拾方 財産権（狭義）

施法権
健康権
生活保護権
身体障害者権
車椅子利用権
恋愛権
離別権
ストーカーに抗する権利
正当防衛権

*

自由権の強要拒否権は物事を強要されない自由。

平民権に選挙権があるが、国民によって選出しなければ統治者、政治家が平民でなくなってしまうから。平民権に少数民族人権が含有される。ところで、世襲議員の比率が大きくなっているという事実は選挙が形骸化しているバロメーターである。この場合平民権の危機と考えられる。速やかに選挙制度の透明性に対する議論が必要であろう。

休暇権とは学校や職場を休む権利である。この権利を意識する事によって、不登校者の環境が改善され後の選択肢も増える。職場においても休暇を主張する権利が広く認知され、また集団行使するとストライキとなる。妊娠休暇権から女性特有の人権が導かれる。

選択権は職場等や修学時期を自由選択する権利の事。

体接触拒否権は主にセクシャルハラスメントに対する権利。広く認知されれば握手を拒否出来る。

意表権とは芸術、出版等の表現の自由である。

移動権とは移動の自由。

革命権は、最終手段として、暴力支配的な圧政に抗して革命を断行する権利であり、最先端武具所有権とは革命に備え、鉄砲、機械等を所有する権利の事、治安権との折り合いが難しい所である。犯罪に備えて自宅にピストルを備えておく行為は武具所有権に該当しないそれは治安権の問題である。軍隊が抑止力であるべきであるように、市民達の暴政に対しての抑止力である。この権利に対しての十分な議論がなされなければ、将来ますます

官僚機構等によって規制されている武具と市内で用意可能な武具の間に乖離が甚だしくなり革命は難しくなる。例えば、権力者が軍隊を自由に出来れば空軍の戦闘機を所有しているが、このような規制されている強力な武器は昔には存在しない。最近の中東情勢を見ても、反政府軍が優勢だったが政府側空軍の空爆攻撃で一転劣勢に転じたという事があった。多国籍軍の戦闘機が援護した反政府軍が盛り返したが、援護がなかった場合どうか。日本でも刀狩りは有名だ。革命後に軍隊を統制する訳だから市民は軍隊統制権を有するが、日頃から軍隊機構の職務分離等に十分に注意を払う必要がある。ピストルを治安問題ではなく革命権として理解した場合、銃規制は繊細な問題で、米国でも規制反対論が根強い。ガンマンの文化保護というだけでないように思われる。

クリーンエネルギー推進権は環境に優しいエネルギー利用拡大を主張する権利。

拾方側を見ると、

購入権とは物やサービスを適正価格で買う権利。正統な理由が無い場合販売拒否は人権侵害である。

労働権とは労働を得て財産を殖やす権利。

要求権より言論権が発生するが要求するには言論が必要であるから。

政治活動権とは政治活動を妨害されずに行う権利。よりよい署名システムの構築等が具体的な話題。

裁判権は裁判を開廷する権利。

スポーツ権とはスポーツを行う参加する権利。スポーツ用具権は、スポーツ用具のレンタル環境や高額用具の購入サポートシステムの有無の事。やりたいスポーツに挑戦する権利。

スポーツ権、娯楽権、受教育権は学内、職場の環境改善要求の論拠に成り得る。教育を受けるのは児童に限った事ではない。

児童施設権は十分な児童施設数と良い教育環境、運営透明性の確保。

衣食住権とは衣食住を充実させるよう要求する権利の事。伝統衣装権は民族衣装等の保存、着用場所に関する権利の事。食料安全権は食に対する安全に関して。欠陥住宅保障権とは、住居は高額である為欠陥住宅であると認められた際に支払額を全額返済可能な財政状態の会社にのみ建築販売を許可する制度、返済要求権の事。

認知権とは知る権利の事で、ここで注意されたいのは何でもプライバシーをも知る権利という意味ではなく、知らない事により不利益となっている事項に関して知る権利という意味である。最先端技術に関して知る権利などというのもここでの認知権とは違う。それならば受教育権である。技術が権力者等によって強制的に隠されているのならば認知権の範疇である。税制の表示解説方法が分かりにくいなどという話しも、其れを知らないと不利益を被るので認知権の話題である。であるからここでのメディア権とは、知らなければ不利益となる内容かどうか議論されるべきバラエティプログラム等は娯楽権の方。メディアの犯罪汚職機能不全は当然認知権の話題。メディア分散化問題。このように考えれば最近ハッキング集団が正義か否か世界的に話題になっていたが理解し易い。官僚機構情報公開要求権とマフィアを知る権利によって、官権、マフィア、市民の三勢分布状況を把

握出来る。第一篇に詳しい。犯罪技術を知る権利により、警察等から情報を得て、流行している犯罪からの防衛手段を講ずる。最先端技術犯罪までも説明責任、解説を受ける知る権利である。

名誉権とは正統に評価される権利の事であり、賞等の公平性透明性に対する議論、その際出生などが判断材料になっていないかという事である。きちんと評価され其の分だけ財産は増えたかという事だ。この名誉権に、政治影響力に対する権利が含まれるが、例えば第一篇で解説しているが、福祉ポイントや学歴値が高かった場合、評価され其の分だけ政党助成金の個人配布額が大きくなるが、それは社会共益の為努力し評価された結果である。この場合正統に名誉を受けているという事になる。努力してもしなくても同じ一票ではおかしい。しかしこの一票自体に差をつけ変更させるという話しになると公平性平等性に抵触すると思われる。そういう名誉ある人間がきちんと影響力を持つように設定されているか、つまりインターネット等を通じて情報発信しかつそれが社会間で広く認知されるような基盤を持っているのかという事で、例えば政党助成金配布額が高い市民達の政策オンラインコーナーの創設等、以上が政治影響力に対する権利である。名誉毀損などの問題も。

安全権は安全に対する権利である。

プライバシー権はプライバシー要求権の事。プライバシーを保った生活を送る権利。ハイテクノロジー侵害に抗する権利はプライバシー権内にある。何もハイテク犯罪はプライバシー侵害に限った事ではないが、それらは警察等が捜査する事項であり（ハイテク爆弾を使用した犯罪、毒ガス攻撃等）、市民がハイテク技術の脅威に曝されかつ自ら対処していかねばならないのは、今日ではプライバシーに対するハイテク攻撃である。具体的には盗聴や盗撮などの事。

治安権とは、治安に関して。夜道の安全確保等。対公要求権とはよりよい治安を警察等公機関に要求する権利の事であり、対私要求権とは警備会社等民間に要求する権利の事である。治安が悪くて困ってどうにもならないと感じたら、すぐに警察が対応してくれる、また警備会社に頼んで警備員を派遣してもらい治安が上昇したなど、速やかに手段が確立されていればこれらの要求権は充実していると言える。警察は無視する警備会社は存在しない対応しないとなれば不足している。対公要求権の中に警察外部監察権があるが、これは警察を統制する為のもの。警察の権限が巨大になり過ぎたら彼らは支配者になってしまう。警察組織腐敗は非常に憂慮されるべき、極めて深刻な民主主義の危機である。

共益施設要求権とは、例えば図書館、スタジアム等の建設を要求する権利の事。

非捨非拾方では、

施法権とは、法律が社会に存在するルールが自らに平等に適用される権利の事。

健康権とは、例えば放射能から身を守る権利である。この権利より事故前でも健康を脅かす可能性脅威に対しての圧力が生まれる。健やかに生きる権利。

人権とは繋がりを意味する故、健康権も他の権利と相互関係にあるという事実は特に言及するまでもないが、ここで国連の社会権規約12条を見てみると、

第十二条 身体及び精神の健康を享受する権利

1 この規約の締約国は、すべての者が到達可能な最高水準の身体及び精神の健康を享受する権利を有することを認める。

とある。

最高水準の身体及び精神の健康は修行しなければ手に入るモノではないので、環境権と健康権の相互関係が理解出来る。当然環境が悪ければ健康は害される。

私は国連の人権を研究してこれを記している訳ではないが、国連人権の場合は、人権とは、人類社会のすべての構成員の固有の尊厳及び平等で奪い得ない権利である、と言い切ってしまう所が相違点だ。人権は財産権故に万人にとって平等に与えられているものではない。生まれた時点での所有財産が違えばその後の機会も当然の如く変わって来る。とりあえず最低限度の人権保障が目標なので、世界が人間生命を維持する最低限度の財産を補償してやるのが人権保護である事に疑いなく、そう考えると餓死、病死の多発は人権問題である。

*万人に平等に与えられていないから、お前になんぞ人権などは無いというのは愚かな見解である。集めて来た財産は違えど、”何時果てるか定かではない生命財産”は皆平等に所有している。この皆が平等に所有しているモノを保護する事が最低限であるという意味であり、二人以上集まり共に何も物を持っていなくても自然発生する権利である。戦争は財産を奪い合い殺し合う集団行為であるから、戦時下での人権というのは特殊であり、攻撃された側とはいえどもここでの正当防衛権で扱われる範疇ではない。重要な項目だが、戦時下での人権というものは本人権学論では扱わない。

国家の経済力に依存し補償必要額が変わって来るという事実は、人権が国家に依存する事を意味する。例えば、一番豊かな米国民の人権保障の為の生活保護支給金を、最も貧しいとされる国の国民達に同額支給しなければならない、何故ならば人権は万人にとって等しく平等に与えられているものだから。という主張が多数者から賛同を得られるであろうか？米国が一番豊かとは言っても、一番補償割合が大きく社会主義よりの国よりも支給額が多いとは限らない。他国民への人権は自国民に対するものと同じという訳でもないし、違うという訳でもない。

法＝権利であろうか？、権利とは施法権でありつまりは人々の期待である（教育と不可分）。書いて並べられている事があまりにも雑多で現状と理想がかけ離れ過ぎている場合、人々は期待しなくなるだろう。彼らに権利は無い状態なのである。

環境権を考える際、修行する権利とは、一般的に如何なる宗教でも修行して一流の宗教者になるという事実から、特定の宗教に依存する性質のものではない。仏陀に対する義務を果たしたので権利を得るという事ではない。ブッダの全てを否定しても当然得られる権利であるし、神に対して義務を果たしたので権利が得られると考えるならば、義務を果た

さねば権利が得られないという意味であるから、神から万人に与えられた一定の権利であるという文句は、義務を果たさなかった者でも一定に与えられるもしくは、敵視している該当宗教を邪教と考え排除を目論んでいる者にも与えられ得る権利とはどこまでの範疇であるのか等の確認が必要になってくるし、期待させる望みを抱かせるのは神であるという話しは、神を主体とし人間を客体と考えている訳であるから、それは宗教学的探求分野の関心事である。

*義務を果たさなかったので死刑（廃止論も優勢だが）になったりするが、例えば、高額納税者はより優良なプライバシー権を得る。子供は判断能力が無いので、社会を引き継ぐ存在という義務を果たしたならば直ちに児童権が得られる。年齢が成人に近づくとつれて義務が段階的に拡張していく。

生活保護権は健康権内にあるが、元来有している健康を維持する為最低限度の生活を社会が保障するものだ。どうしてそのような者を保障する必要があるのかという声もあろうが、彼は原始時代だったら野山の木の実や川で魚などを釣って気ままに暮らしていたのだ。しかし現代社会生活に馴染めず適応出来なかった結果、独りで生きていく術を失ってしまい保護を必要としているので社会が面倒をみるべきである。犯罪被害に遭い心身を悪くし生活保護が必要になったケースや元々体が弱い人達も当然いる。大金持ちが金遣いが荒くて破産し生活保護が必要になった場合でも同じ事。適応不全と見る。最低限度保障であるべきで、他の月給が安い者から妬まれるようではどうだろうか。最低衣食住医療保障などが第一だが、倫理問題上どの程度まで医療保障するのは難しい。社会では医療費を払えずに死亡するケースも多いだろうし無制限医療保障は難しい。

身体障害者権は身体が不自由な者の権利。車椅子利用権は障害者が車いすを色々な場所で利用する権利だが、社会が高齢社会になると老人が車いすを必要とする為、当然人数が多い年齢層向けの施設が増える。これらを積極的に車いす利用権の権利拡大の良い機会と捉えるべきであろう。先進国では高齢化が進んでいる。

恋愛権は恋愛をする権利。性や年齢が問題である。恋愛は心身の問題で健康に影響するので健康権に属している。人によって健康が良くなったり悪くなったりする。結婚とは違い恋人は財産ではないのでこちらに分類されている（夫だと給料を持って来るので財産）。当たり前のような気もするが、この権利が明確にされないと、例えば、女は結婚前まではつき合ってはならない。もしつき合っていた事が判明したら遊女のレッテルを自治体に貼られ間違いなく結婚出来ないなど、息苦しい社会も考えられる。片側の合意が崩れた時点で離別が一方的に成立する。またストーカーに抗する権利は重要である。警察も事後まで捜査しないし、恋愛のもつれからのストーカーは別れを切り出すと暴力を振るい非常に恐ろしく、殺人のケースに発展する事も珍しくない。民間ストーカー相談窓口の充実、説得相談員、ガードマンなどを充実させる。これらに対する要求権である。

正当防衛権は当然の如く、不当な暴力を振るわれたい権利、又は緊急避難的に相手に対する暴力が認められる権利である。